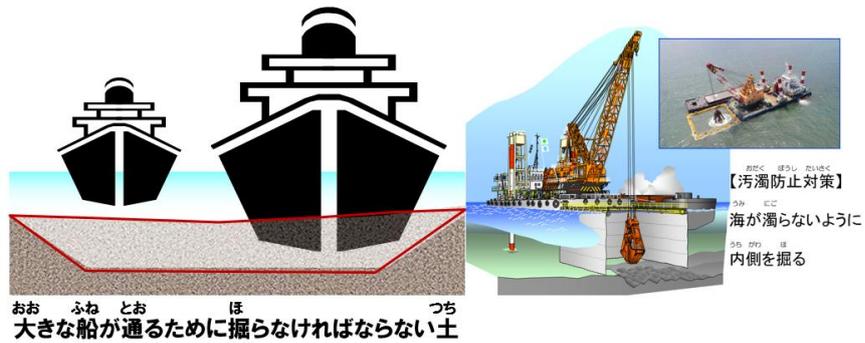


大島干潟について

●大島干潟はどうやってつくったの？

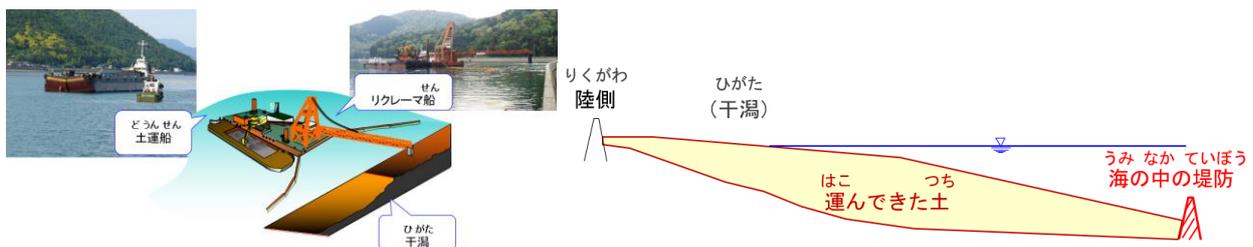
しゅうなんしない しんなんようちく こうろ おお ふね とお うみ みち
 周南市内（新南陽地区）で航路（大きな船が通る海の路）をつくるために、
 うみ そこ
 海の底をほりました。



つち いちぶ どうんせん つち はこ ふね おおしまちく はこ ひがた つち
 ほった土の一部を土運船（土を運ぶ船）で大島地区に運び、干潟の土として
 りよう
 利用することになりました。



はこ つち なが で うみ なか ていぼう うちがわ
 運んできた土が流れないように海の中に堤防をつくり、その内側にリクレ
 せんなど つち い ひがた
 ーマ船等で土を入れて、干潟ができました。





できあがった
おおしまひがた
大島干潟

おおしまひがた
大島干潟をつくと、アサリやいろいろな生き物がすむようになりました。
かいそう しぜん ふ ば りょうし は
海草のアマモが自然に増えて、アマモ場ができました。漁師さんはネットを張っ
そだ
てアサリを育てています。



タイワンガザ



ヒラメ



ミミイカ



トリガイ

おおしまひがた
大島干潟にすむ生き物達



おおしまひがた
大島干潟におけるアマモ場



アマモ



コアマモ

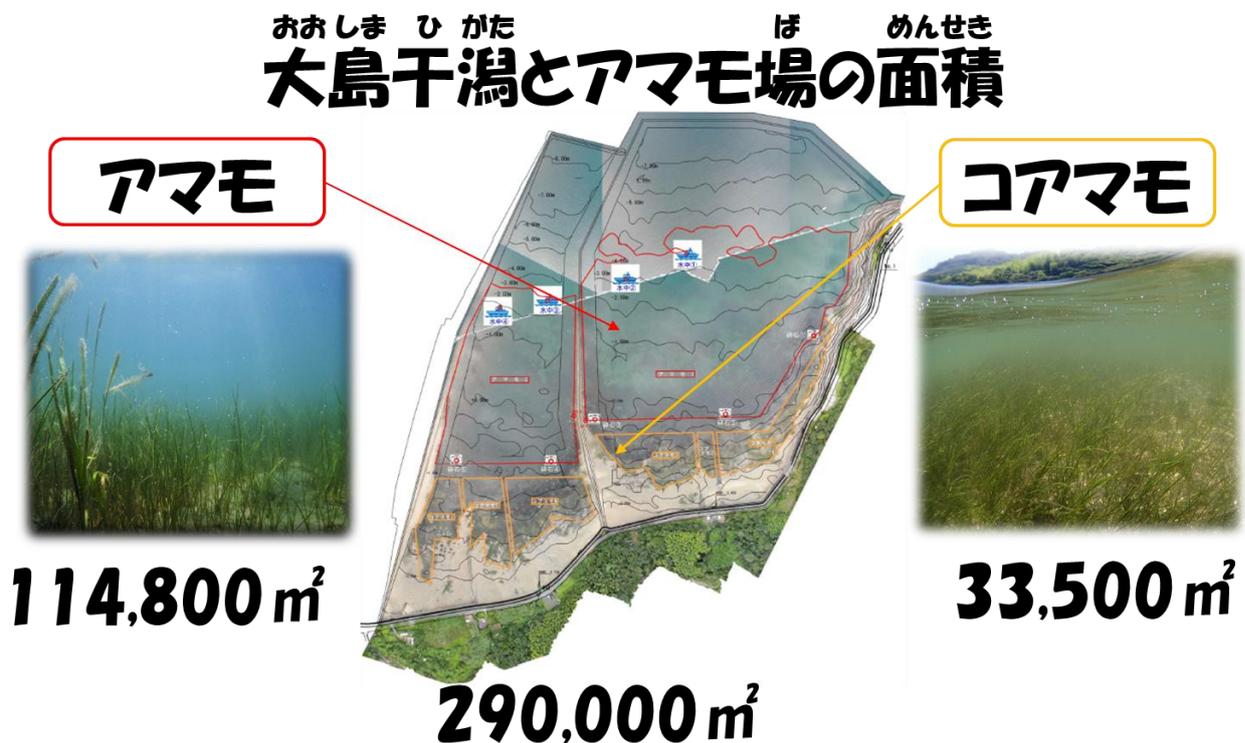


アサリネットとアサリ

ブルーカーボンについて

●大島干潟のアマモ場

大島干潟のアマモ場には、アマモとコアアマモの2種類がはえています。大島干潟の面積は290,000 m²(29ha)で、そのうちアマモが114,800 m²(11.48ha)、コアアマモが33,500 m²(3.35ha)を占めています。このように、大島干潟の半分近くがアマモ場となっています。



出典：JBE HP「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港 申請書（抄）（2）添付資料」

おおしまひがた
●大島干潟のブルーカーボン

それだけではなくアマモは、地球温暖化の原因となる
二酸化炭素を吸収します。このように、海に吸収される
二酸化炭素をブルーカーボンといいます。

おおしまひがた
大島干潟では、1年間に44.3トンもの二酸化炭素が
吸収されています。みなさんのお家では、1年間に2.72
トンの二酸化炭素が排出されていますから、大島干潟は約
16家庭分の二酸化炭素を吸収していることになります。

おおしまひがた
大島干潟のブルーカーボン

ねんかん
1年間で44.3トンの二酸化炭素を吸収



かてい
1家庭
ねんかん
年間2.72トン排出

$$44.3 \div 2.72 \\ \text{やく} \\ = \text{約} 16$$

おおしまひがた
大島干潟は1年間に16家庭分の
二酸化炭素を吸収する！！

出展：環境省「家庭部門のCO2排出実態統計調査」